

東北森林管理局 森林技術・支援センター

たより

〒037-0305

青森県北津軽郡中泊町大字中里字亀山540-8

【仮庁舎 令和3年6月まで】

〒037-0202

青森県五所川原市金木町芦野200-498

TEL : 0173-53-3848 FAX : 0173-54-2102

E-mail : t_gijyutu_c@maff.go.jp

4月1日付け人事異動 着任のご挨拶

4月1日付け人事異動により、森林技術・支援センター所長を拝命した相馬です。当センター勤務は初めてとなりますがよろしく申し上げます。

さて、林業における低コスト化が言われるようになって数年経ちますが、未だに現場は、厳しい環境下での人力作業が多く、生産性・安全性が低位に止まっています。このため、丸太の生産・流通コストが高くなり、その販売収益から再造林費用を捻出することが困難になっています。持続的な林業経営のためには、これまでの林業の常識を見直し、新技術などの林業イノベーションにより、伐採から再造林、保育に至る収支のプラス転換を図る必要があります。

当センターでは現在7つの技術開発課題に取り組んでいますが、4課題が低コスト化に関連する技術開発課題となっています。特に、林業の現場において夏場の過酷な時期に実施される下刈りについて、回数や面積の削減に向けた「多雪寒冷地における大苗植栽の特性について」、「2条、3条植栽による下刈の省力と多様な森づくり」は、その成果が大いに期待されるところです。

さらに、長年取り組んでいるヒバ林施業に加え、研究機関の協力を得ながら「カラマツ挿し木コンテナ苗の植栽試験」など新たな技術開発にも取り組んでいます。

国有林野事業については、民有林への指導やサポートなど我が国の森林・林業の再生に貢献することが求められており、当センターとしても、時代に沿った技術開発することで地域貢献できるものと考えております。

最後に、微力ではありますが、精一杯頑張りますので、今後ともよろしく申し上げます。



【所長 相馬 勝則】

取り組みの一部を紹介～冬のユリノキ～

昨年の春、ユリノキの萌芽枝が食害を受けているのを見つけました。このことから、冬に食害調査のためセンサーカメラを設置しました。今回はその結果をお知らせします。

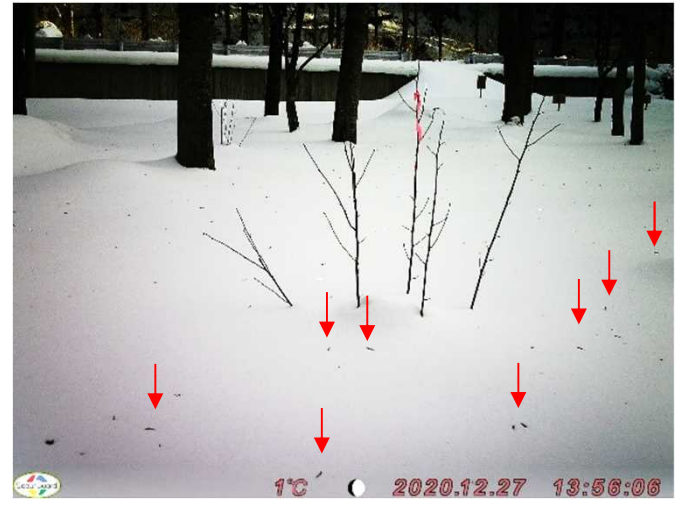
ユリノキの周囲に落ちている「糞」や「食痕」から予想したとおり、センサーカメラに「ノウサギ」が写り込みました（図1）。雪解け後、ノウサギが写った箇所のユリノキの株を確認したところ、若干の食害が確認されましたが、萌芽初期の頃よりは被害が落ち着いている印象を受けました。萌芽枝は伐採3年目で木質化が進んでいるので、やわらかい萌芽初期よりはおいしくなかったようです。（裏面へ続く）

(表面からの続き)

ところで、写真から種子が落下する時期も観察することができました。今回、山間部のユリノキ植栽箇所(青森市)へセンサーカメラを設置したのですが、12~1月頃に種子落下のピークがくるようです(図2)。先日、採取した種子を試験的に播種してみましたので(図3)、今後は発芽状況などもお知らせします。

(青山)

(図1(右):ユリノキの萌芽枝とノウサギ)→
(図2(右下):雪上に落下した種子)↓
(図3(下):播種の状況)↓



❖ お世話になりました ❖ ~ 令和3年4月1日付け人事異動 ~

・津軽森林管理署金木支署長 白戸 副康(森林技術・支援センター所長)

<お詫びと訂正(ヒバの花はいつ咲くの・・・)>

センターたよりNo. 84で掲載していた「ヒバの雄花、雌花の写真」に誤りがありました。正しくは下の写真となります。お詫びして訂正させていただきます。(青山)



○ 雌花 ○ 雄花

~編集後記~

4月の人事異動で新しい所長が着任し、顔ぶれの変わった新年度が始まりました。また、技術開発課題などの業務打合せも始まり、現地調査に取りかかる準備も始まっています。今年度も各課題にかかわります関係者の皆様、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

